

二年生の「国語」は、教科担任（担当の先生）が一年生の時とかわります。今年の担当は、平塚です。

新年度の授業が始められないのですが、2年の授業の準備ができると思います。

6日配布のプリントに、「枕草子 第一段」（春はあけぼの）を読んでみようというコメントを載せました。

「歴史的仮名遣い」（古典的仮名遣い）は一年生の時にも学習しているので、読めると思います。けれども、古語（昔の言葉）なので、切れ目がわからないところがあるとあります。

そこで、読み方を言葉の切れ目がわかるように、現代仮名遣いの読み方のひらがなで表記します。これで、読めるようにして下さい。

（先に）注意事項

・この表記は、切れ目がわかるようにしたもので、読むときにはこのようにブチブチ切りはしません。  
「ようようしろくなりゆくやまぎわ」のようにつづけて読みます。

・「三つ四つ 二つ三つ」のところは、古典ではちいさい「っ」は入れずに、「みつよつ ふたつみつ」と読みます。

はるは あけぼの。ようよう しろく なりゆく  
やまぎわ、すこし あかりて、むらさきだちたる  
くもの ほそく たなびきたる。

なつは よる。つきころは さらなり。やみも  
なお、ほたるの おおくとびちがいたる。また、  
ただ ひとつ ふたつなど、ほのかに うち ひか  
りて いくも おかし。あめなど ふるも おかし。

あきは ゆうぐれ。ゆうひの さして やまのは  
いと ちこう なりたるに、からすの ねどころへ  
いくとて、みつよつ ふたつみつなど、とびいそぐ  
さえ あわれなり。まいて かりなどの つらねた  
るが、いと ちいさく みゆるは いと おかし。

ひ いろはてて、かぜのおと むしのねなど、はた  
いふべきに あらず。

ふゆは つとめて。ゆきの ふりたるは いうべ  
きにも あらず、しもの いと しろきも、また  
さらでも いと さむきに、ひなど いそぎ おこ  
して、すみもて たわるも いと つきづきし。ひ  
けの なりて、ぬるく ゆるびもて いけば、ひお  
けの ひも しろき はいがちに なりて わろし。

また、国語の学習として、漢字の練習なら、どんどんできると思います。教科書のページにそった漢字ドリルを紹介しますので、やってみてください。

・教科書に出てくる、「二年生の新出漢字」は読めるようにしましょう。

・「新出音訓」は読めて書けるようにしましょう。

・文章や教材に出でくる、小学校の時に習った漢字は、読めて書いて、自分の作文などにも使えるようにしましょう。

・プリントアウトして使ってもいいでしょう。

・答えのページを見て、自分で採点しましょう。

・間違えた字は練習しましょう。

○これから先も増やしていく予定です。

1

漢字ドリル 中二 新出 他

組 番 氏名

― 次の ― 線部の漢字の読みを書きなさい

① 紫色の雲 ( )      ② 蛍光灯 ( )      ③ 趣のある庭 ( )

④ 霜がおりる ( )      ⑤ 憧れる ( )

⑥ 文房具 ( )      ⑦ 力を誇示する ( )

⑧ 蛍が飛ぶ ( )      ⑨ 趣味の絵画 ( )

⑩ 一房のぶどう ( )

1

漢字ドリル 中二 新出 他

答え

組 番 氏名

― 次の ― 線部の漢字の読みを書きなさい

- ① 紫色の雲 (むらさき) (けいこうとう) (おもむき)  
② 蛍光灯  
③ 趣のある庭

- ④ 霜がおりる (しも) (あこがれる)  
⑤ 憧れる

- ⑥ 文房具 (ぶんぼうぐ) (こじ)  
⑦ 力を誇示する

- ⑧ 蛍が飛ぶ (ほたる) (しゅみ)  
⑨ 趣味の絵画

- ⑩ 一房のぶどう (ひとつぶ) (ひとつぶ)